

6月の果実の見通し

平成30年5月24日現在
山形県東京事務所

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比見込	5ヵ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
おうとう		1,313	120%	1,143	1,766	安い	1,806	1,151	69.0%	全体的には開花は前年より早く、その後も気温高で推移しており、生育は早めの展開。山形産の露地物も5月末には早生種の出荷が始まり、「佐藤錦」が6月中旬からピーク、「紅秀峰」も下旬には始まる。 前年は6月末となった秋田産も6月半ばには出荷開始となる見込み。前年より出回りペースは1旬ほど早く、6月の出荷比率が高まるため、価格は前年を下回ろう。
もも類		704	115%	1,103	779	やや安い	667	0	0.0%	ハウス物の出荷が6月上旬頃まで続き、露地物の出荷は山梨産を皮切りに上旬から始まる、前年は低温が影響して中下旬からのスタートとなり肥大時期に降雨が少なく小玉傾向であったが、今年は3月・4月の天候が良く気温も高く推移したことから生育は順調であり、露地物の出荷は前年に比べ7日～10日早く始まる見込み。肥大時期にある程度降雨もあったので肥大状況は良い。和歌山産においても順調な出荷が伺える。
ぶどう類		583	95%	564	1,570	やや安い	1,417	9	1.5%	ぶどうで話題となるのはシャインマスカットだが6月に販売が多いのはデラウェアで、島根産中心の販売になり、山梨産は統一共選が上旬で出荷終了し、中旬から農協別出荷に切り替わる。山形産の出荷は前年より若干早いぐらいで生育している。 大房ぶどうは前年並みの出荷となるが各産地シャインマスカットは前年比の120%の出荷になる。
すいか類		10,708	95%	9,916	205	前年並み	203	5	0.1%	3月・4月の出荷量は前年に比べ少なく推移したが4月末より出荷増加傾向となり熊本中心の販売が展開された、5月中旬より千葉産の入荷も始まり6月には鳥取産も始まる。 前年に比べれば千葉・鳥取は早い出荷となりピークに入るのも早くなるが、5月の連休明けから低温が数日続いたため、6月中下旬は入荷が減少する恐れがある。 こだま西瓜は群馬・茨城は順調な出荷が中旬まで続き、熊本、黒小玉西瓜も6月いっぱいある。
メロン類		4,858	100%	5,223	427	やや安い	396	86	1.8%	関東産露地メロンの出荷最盛期を迎える。4月以降の好天と気温高の影響で生育は前進傾向となっており、各品種ともに例年より出回り時期は前倒しとなっている。玉肥大も良く、栽培面積が縮小する中でも前年並の出荷量は確保される見込み。 6月上・中旬にかけては売り場も確保されて安定した販売だが、夏果実が増えてくる下旬からは苦戦する場面もある見込み。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果㈱)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)